

上野幌・青葉地域 **北側部会 ニュース**

上野幌・青葉地域小規模校検討委員会はこれまで地域の4つの小学校を対象に検討してきました。2016年9月からは議論を深めるために、北側部会（上野幌小学校・青葉小学校）と南側部会（上野幌西小学校・上野幌東小学校）に分かれて検討しています。このニュースについても部会ごとに発行します。

～このニュースはまちづくりセンターや児童会館、学校でも配布しています～

**第1回北側部会
について**

11月4日（金）午後3時から、上野幌小学校で第1回の北側部会を開催し、統合後に活用する校舎について検討を行いました。

**報告事項
個別に寄せられた
意見**

第12回検討委員会以降、電話で1件、FAXで1件、手紙で1件、メールで3件の計6件のご意見が事務局に寄せられており、その報告がありました。

- 地域の野球やサッカーの少年団も合同のチームとして活動したほうがいいのではないかと。

（平成28年9月 メール）

- 現状の児童数や青葉地区の見守り箇所の多さから考えると、統合後に活用する校舎は青葉小学校の方がいいのではないかと。

（平成28年9月 FAX）

- 青葉中学校と隣接していることや建築年度が10年新しいことを考慮すると、統合後に活用する校舎は上野幌小学校にした方がいいのではないかと。また統合後に活用する校舎を検討する際には、統合にかかる費用を考慮する必要があるのではないかと。

（平成28年9月 メール）

- 両校を比較する際には、青葉町の北側は他に近い小学校（共栄小学校、もみじの森小学校）への指定変更区域の設定が可能であること、厚別南地区センターには図書室が設置されており児童の学力向上や情操教育に大きく貢献していること等の観点を検討してほしい。

（平成28年10月 手紙）

- 青葉地区には、新しい市営住宅や青葉中央公園などの大きな施設があり、学校が閉校しても何も残らない訳ではない。跡活用として地域のためになるような施設の要望をしていけばいいのではないかと。

（平成28年10月 電話）

- 現状では小中一貫校の議論をすることができないとしても、中学校との距離が近く連携をとりやすくなるため、統合後に活用する校舎は上野幌小学校が望ましいのではないかと。実際に使用する児童のことを考えて、より良い方向で検討していただきたいと思う。

（平成28年10月 メール）

検討事項

下記の検討事項について、協議を行いました。

■ 統合後に活用する校舎について（継続）

現在の児童の分布状況を確認し、両校の校舎を活用した場合のメリットを挙げて、統合後に活用する校舎の検討を行いました。

■ 上野幌・青葉地域（北側地区）児童分布図



■ 青葉小学校区(オレンジ色の点線)

- ①青葉町3丁目
- ②青葉町4丁目
- ③青葉町5丁目2番
- ④青葉町6丁目
- ⑤青葉町7丁目
- ⑥青葉町8丁目
- ⑦青葉町9丁目3～14番
- ⑧青葉町13丁目

■ 上野幌小学校区(青色の点線)

- ①厚別南4丁目
- ②厚別南5丁目
- ③厚別南6丁目
- ④厚別南7丁目
- ⑤青葉町9丁目1番2番
- ⑥青葉町10丁目
- ⑦青葉町16丁目

※平成28年5月1日時点での住民基本台帳上の児童数(小学生)に基づく
 ※校区外への通学等は考慮していない

■ 統合後に活用する校舎についての論点整理

項目	学校	上野幌小学校を活用した場合のメリット	青葉小学校を活用した場合のメリット
①教育環境		・グラウンドが広い ・小学校と中学校が隣接しており、小中連携がしやすい	・公共交通機関を利用した校外学習がしやすい
②通学		・中学生と通学の方向が一致している	・最長通学距離が短い
③まちづくり		・文教エリアを形成できる（小・中学校、地区センター図書室）	・学校機能を分散できる
④放課後児童対策		・校内にミニ児童会館がある	・学校の近くに児童会館がある
⑤その他		・多世代交流が期待できる（地区センター）	・基幹避難所を分散できる

○統合に伴う児童数増に対応するための教室整備費用は、上野幌小学校で約3,500万円、青葉小学校で約2,000万円となる見込みである。その他老朽化している箇所（統合に関係なく、将来実施しなければならない工事）についても併せて実施する予定である。

○青葉児童会館までの最長距離は、上野幌小学校区では約1.7km、青葉小学校区では約1.0kmとなる。

- 統合後に活用する校舎について
- 上野幌小学校のグラウンドの広さは児童にとってプラスではないか。
 - 上野幌小学校は青葉中学校に隣接しており、通学の方向が一致することから、中学生に小学生を見守ってもらうことができる。また、兄弟姉妹が小学校と中学校に通学している保護者にとって、緊急時に子どもたちが近隣にいれば安心感があるのではないか。
 - 青葉小学校は地下鉄駅まで歩いていけるので校外学習が行いやすいというメリットがあるのではないか。
 - 青葉小学校は地域と学校が協力してサタデースクールを行っており、その素地は新設校でも活かせるのではないか。
 - 札幌市の財政面を考えると、統合時の施設改修費を抑制できる青葉小学校にメリットがあるのではないか。
 - 活用する校舎の検討に当たって、施設改修等の費用は考慮する必要はないのではないか。
 - 青葉児童会館は地下鉄やJRの駅に近いので、仕事帰りの保護者にとって児童を迎えに行きやすいのではないか。
 - 統合後に想定される通学路を実際に歩いてみたら、活用する校舎の検討の際に役立つのではないか。
 - 2校はどちらも閉校し、既存の校舎を活用して新しい学校を作るという意識をきちんと持って議論する必要があるのではないか。
 - 文部科学省では、小学校と中学校が別々の校舎での小中一貫校も認めている。札幌市では今年度から小中一貫校の検討が始まっているが、その状況も注視して統合校の魅力的な学校づくりに結び付けていければいいのではないか。
 - 札幌市として小中一貫校について検討中とのことだが意見書の中に要望として項目を入れていいのではないか。
 - 現時点での札幌市における小中一貫校の検討状況について情報提供をしてほしい。
 - 両校のメリットだけを議論していても結論は出ないし、決め手となる項目がないと思うので、検討の進め方を考える必要があるのではないか。
 - 学校規模適正化をいち早く進めるためにも、北側部会として期限を設けて活用する校舎を決定すべきではないか。児童はもちろんのことだが、教職員への影響も考えると、スピード感を持って検討すべきではないか。

部会の委員一覧

北側部会は厚別南町内会連合会の代表3名、青葉町自治連合会の代表3名、上野幌小学校と青葉小学校のPTA代表各3名、学校長2名に有識者2名を加え、以下の16名で運営していきます。

北嶋雅見	道銀地域総合研究所	業務部長	司会委員
猿丸由紀子	青葉小学校PTA	副会長	
塩川直美	上野幌小学校PTA	副会長	
島崎圭介	青葉小学校PTA	会長	
白川典洋	上野幌小学校	校長	
城哲也	青葉町自治連合会	副会長	
高平弥生	青葉町自治連合会	女性部長	
高村誠	美しが丘緑小学校	校長	統合経験者
土田義也	青葉町自治連合会	会長	部会代表
長倉五月	青葉小学校PTA	書記	
橋本容子	上野幌町内会	女性部長	
村田勝雄	上野幌町内会	副会長	
山越麻希子	上野幌小学校PTA	副会長	
吉岡敏幸	厚別南町内会連合会	副会長	部会代表
鷺足和枝	青葉小学校	校長	
輪島誠	上野幌小学校PTA	会長	

(五十音順・敬称略)

※下線はこの北側部会から新たにご就任いただいた委員です。

確認事項

第1回の北側部会では下記のことを確認しました。

- ・統合後に活用する校舎の検討の参考とするため、事務局から札幌市の小中一貫教育に関する検討状況を報告する。
- ・統合後に活用する校舎を決定する時期について、北側部会の中で目標を定めて検討するかどうかを協議する。

第2回の北側部会について

第2回北側部会は、来年1月頃の開催を予定しており、引き続き統合後に活用する校舎について協議を行います。

■ **ご意見・ご質問は、下記の検討委員会事務局までお寄せください** ■

上野幌・青葉地域 小規模校検討委員会 事務局

札幌市教育委員会 生涯学習部 学校施設課 (学校規模適正化担当)

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル

TEL 011-211-3836 / FAX 011-211-3837

E-mail gakkokibo@city.sapporo.jp

※ 検討委員会ニュースは、札幌市教育委員会ホームページにも掲載しています。

<http://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/tekisei/kentoutiiki.html>